



平成 30 年 1 月

第 51 号

# 医療連携だより

公立置賜総合病院医療連携・相談室 ☎0238-46-5000 内線 1902・1409

## 「置賜二次医療圏における中核病院としての役割」

公立置賜総合病院 院長 林 雅弘



明けましておめでとうございます。当院が求められている救急医療と高度医療の提供に関して少しお話しさせていただきます。

### 1 救急医療

当院は長井・南陽・川西・飯豊の二市二町の1・2・3次救急や白鷹・朝日・小国・高畠、米沢の一部の2次、3次救急を担っています。そのなかで米沢市の2次救急医療は米沢市立と三友堂病院で主に担当しています。しかし医師などの職員数に比してその負担が大きく、また病院の建物も老朽化し、建て替えの時期になっています。米沢市立病院を早期に独立行政法人化した後に6年後を目安に急性期病院とし、三友堂病院を回復期病院として医療連携推進法人を利用した合併再編が計画されています。しかしこれが実現されるのは早くても6年後になります。このため置賜地域の救急医療に対する当院の役割が非常に重要になって来ています。

### 2 高度医療

これまでのDPC分析から置賜地区では当院に集中している疾患が多くあります。呼吸器内科・外科、糖尿病内分泌、血液内科、神経内科、歯科口腔外科、耳鼻咽喉科などは、複数の常勤の専門医がいる

のは当院だけです。また消化器内科では検査は他の病院でも行われていますが、高度の技術を要する内視鏡的治療など多くの患者さんが米沢を含めて置賜地域内から紹介されてきています。消化器外科、整形外科、循環器科などは他院でも複数の常勤はありますが、その数に大きな差があり、当院の占める患者数の割合が高くなっています。

今後もこの様な置賜地域の医療のニーズに応えるべく、高度な安心・安全の医療を提供していく必要があります。

置賜地区の中核病院としてその役割を果たすべく、今年も職員一丸となって改革を進めていきたいと思えます。この実現のためにも医療連携、医療と介護の連携が重要になります。皆様のご理解とご協力をお願い致します。

特集:

年頭のあいさつ

「置賜二次医療圏における中核病院としての役割」

院長 林 雅弘

……1

市民公開講座

……2~3

公立置賜総合病院  
からのお知らせ

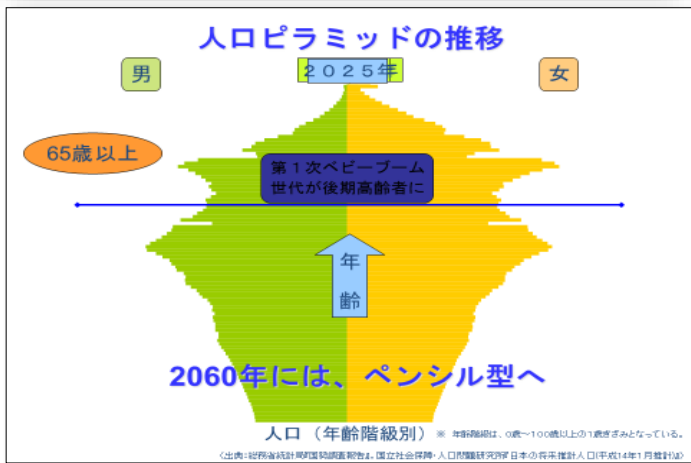
……4

# 第9回 市民公開講座 置賜の明日の医療を考える

去る10月28日 第9回「明日の置賜の医療を考える」講演会が南陽市えくぼプラザにおいて開催され、60名を超える方の参加がありました。今回は高齢化社会において注目されている「認知症」をテーマに講演会が行われました。認知症を厄介者扱いではなく、地域全体で理解し支える優しい町づくりができることを願います。

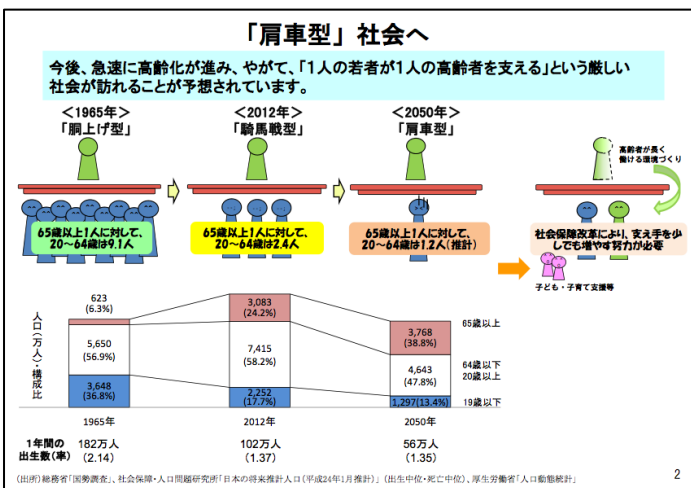
## 【講演内容】 演題 認知症ケアの理解と援助 医療と介護の連携が患者家族にもたらす恩恵

講師：北里大学大学院医療系研究科臨床医科学群精神学  
下村 裕美子 氏



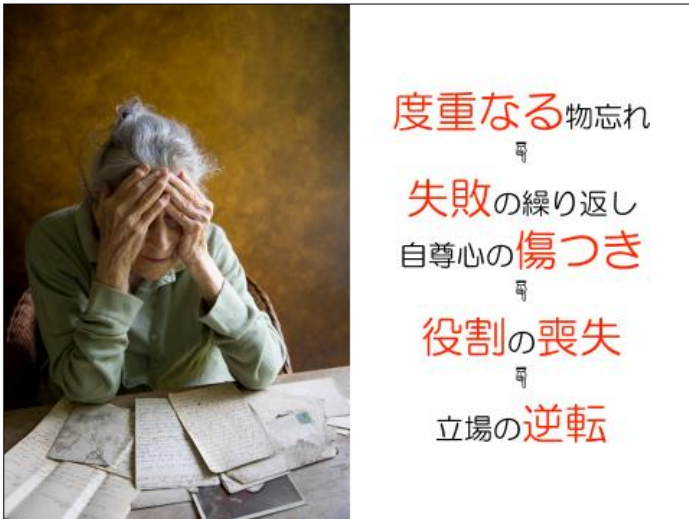
人口ピラミッドの推移で 2060 年には 65 歳以上人口が多くを占めるペンシル型になると言われています。2015 年に団塊の世代、第一次ベビーブーマーの世代が高齢者になり、団塊の世代の 700 万人が後期高齢者となる 2025 年問題が叫ばれています。高齢者人口（65 歳以上）の増加数で都道府県ごとに見ていくとこれから大変になっていくのは、東京はじめ大都市です。山形県は高齢化率が 30.8%と全国平均から比べるとやや高めとなっています。人口動態で見えていくと山形県はゆるやかに医療が減り、ゆるやかに介護が増えるというのがこの地域の特徴になります。介護の受け皿が足りないにも関わらず、高齢者が増えていくので介護の手が足りないということが起こります。

高齢者医療の将来像として「時々入院 ほぼ在宅」があげられています。“ほぼ在宅”で活躍していただくかかりつけ医を、“時々入院”で急性期病院の医師がバックアップしていくのが理想的とされています。また高齢者に必要なのは「きょうよう」と「きょういく」**今日、用があること、今日、行くところがあること**です。



認知症は病名ではなく、また老化による物忘れと認知症は違います。原因はわかってはいませんが認知症の危険因子は加齢です。認知症ではない治るべき病気を医師に鑑別してもらうためにも早期発見が大事になってきます。





認知症とは自分の力で社会生活を営めなくなった「状態」です。周囲から尊敬され元気に暮らしているおばあちゃんの例：ずっと利用していた銀行が窓口業務からATMに変更になりました。何度も教えてもらいましたが、操作できません。解決方法は何でしょう。薬を処方してもらうことよりも窓口で人が対応することが必要になります。治すことよりも生活を援助することが求められるのだと思います。

超高齢社会における認知症ケアの課題を解決するカギはかかりつけ医を中心とした医療を展開していくことが大事になってくると思います。高齢になると複数の疾患を合併しやすくなります。服用する薬が増え管理がしづらくなり、薬の副作用がでてきます。病院の医師はその疾患に対するスペシャリストですが、一人の人間を統合して診るかかりつけ医がこういった薬の副作用などを診ながら整理し、医師同士で相談してくださる、今後はこういったことが一人の患者にとっては重要になってくるでしょう。

オレンジプランは厚生労働省が出している認知症に対する施策です。誰でも受講が可能で、90分の養成講座を受け、認知症サポーターとなりリストバンドをもらいます。地域において認知症の方を気づき、慰め、関わり、見守り、つなぐことで安心ある生活ができるよう援助するものです。寛容な社会で住みやすくしていくためにも、医療と介護の連携というのが必要になってきます。例えば、介護士さんは残薬をいっぱい知っています。押し入れに保管しているたくさんの湿布薬や風邪薬。認知症の方は訴える力が弱いのでなかなか周囲に伝えられないということがあります。こういった情報を医療側と共有して行くことが大切です。

日本の戦時中からある母子手帳にならない、相模原市は「支え手帳」を作成しています。行ったことを次の外来まで覚えていくことが難しいので書き留めていく連絡帳です。高齢者の認知症疾患に理解のある社会を考えることは、**安心して歳を重ねることができる社会**を考えることかもしれません。医療ができることもあります。パラリンピックの創設者ルード・ヴィッヒグッドマン博士の「失ったものを数えるな 残されたものを最大限に活かせ」の言葉のように、まだまだできることがあると思います。

お詫び 先生には約 60 分ご講演をいただいておりますが、ページの都合上、割愛させていただいております

## 公立置賜総合病院からのお知らせ

公立置賜総合病院

〒992-0601

山形県東置賜郡川西町  
大字西大塚 2000 番地

TEL:

0238-46-5000

予約センターTEL:

0238-46-5700

FAX:

0238-46-5722

E-MAIL:

renkei@okitama-hp.or.jp

### 非紹介患者初診加算料（選定療養費）の変更について

平成30年4月1日から

他院からの紹介状を持たずに受診された場合にご負担いただいている、選定療養費の額が変更になります。

1,620 円 (税込) → 3,240 円 (税込)

地域医療機関との連携や役割分担を進めるために国が徴収を義務付けているもので、他の病院又は診療所からの紹介状を持たずに初診で病院を受診された場合、初診料のほかに全額自費でご負担いただいているものです。

このため、通常は自己負担の生じない「子育て支援医療（乳幼児医療費助成制度）」や「ひとり親家族等医療費助成制度」に該当する方であっても、窓口での支払いが発生することとなりますので、ご注意事項です。

※初診に関する「選定療養費」をご負担いただく必要のない方

- 他院からの紹介状（診療情報提供書）をお持ちの方
- 緊急の場合（救急車での搬送など）
- 生活保護法の医療扶助の対象となっている方
- 特定の疾患や障害などで、各種の公費負担を受給されている方
- 今回の診療科は初めてだが、当院の別の診療科に通院されている方（医科・歯科の違いは除く）

### 予約取得の御協力をお願いします



予約なしで受診されますと、患者さんが上記の選定療養費の負担対象である場合がございます。診察の待ち時間も増え、患者さんのご負担が大きくなります。そのため、当院では「かかりつけ医を持つ」、「紹介をいただき予約取得」という流れをお勧めしております。皆様のご理解とご協力お願い申し上げます。

予約センター TEL : 0238-46-5700（直通）

FAX : 0238-46-5722（直通）

### あとがき

2018年は診療報酬・介護報酬同時改定の年です。報酬改定で求められる医療や介護の方向付けがされ、変化している現状があります。そして今や“連携”というキーワードはどこにでも出てくるようになりました。医療連携・相談室でも地域医療支援病院として、ますますの連携強化を図れるよう精進していきます。



病院理念  
心かよう信頼と安心の病院

置賜広域病院企業団

公立置賜総合病院

www.okitama-hp.or.jp